

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37857
事業名	保育士等支援費					
評価担当課	所属名	子)子育て支援 保育推進課				
	課長名	西山 謙一	担当者名	山吹 敏彦	電話番号	011-211-2346
施策名	主	子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	令和3年度中に、保育人材緊急対策事業(短縮コード38350)と合わせて、保育所等で就労する保育士を188人確保する。			
		長期	令和元年度～5年度の5か年度において、保育人材緊急対策事業(短縮コード38350)と合わせて、保育所等で就労する保育士を、平成27年からの累計で1,200人確保する。			
	取組内容	<p>新規保育士確保のほか、潜在保育士の掘り起こし、現役保育士の就業継続支援等を目的として、下記の事業を実施する。</p> <p>①「保育人材支援センターさぼ笑み」において、保育士等の求職者と保育施設の事業者のマッチング支援を行う。</p> <p>②「さぼ笑み」の事業メニューの一つとして、「施設説明会・面接会」を開催し、両者のマッチングの機会を提供するとともに、実施後においても継続支援を行う。また、主に保育施設の管理職を対象とした「人材確保・定着化研修」を実施し、人材確保のノウハウ、離職防止のための業務改善策等を学ぶ。</p> <p>③「保育士等実態調査」を実施し、各種事業の立案等に向けた基礎データの収集及び既存事業の効果等を検証</p>				
	実施結果	<p>・保育人材支援センターさぼ笑みの運営により、令和3年度中にで求職者243人の登録、71人の採用に繋げるとともに、263施設、771件の求人登録等を行った。</p> <p>・保育園オンラインミーティング(合同説明会・面接会)を開催し、求職者117人、事業者110法人が参加した。</p> <p>・保育人材確保緊急対策費(短縮コード38350)の事業と合わせて、合計189人の保育士の就労に繋げた。</p>				
事業実施における工夫点	・保育人材支援センターさぼ笑みの運営において、支援対象職種の拡大、マッチングシステムの導入、センターの市内中心部への移設、開所時間の拡大など、機能拡大、利便性の向上を図った。					
対象者	潜在保育士及び現役保育士、保育士資格を取得予定の新卒者など	開始	平成28年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	児童福祉法 札幌市児童福祉法施行条例					
他都市の状況	■セミナー等の実施:横浜市等の多数の自治体で実施。■保育士・保育所支援センターの運営:全国で64の自治体が設置。相模原市等は委託先を民間企業として効果をあげている。■保育士等実態調査の実施:北海道等で実施。■保育教諭受講・代替雇上費補助:仙台市等で実施。					

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		31,770	49,000	42,509	48,000
うち特定財源		13,698	23,000	16,726	14,367
人工		0.4	0.4	0.4	0.4
人件費		2,880	2,880	2,880	2,880
計(事業費+人件費)		34,650	51,880	45,389	50,880
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額 42,509千円 <内訳> 保育人材支援センター運営 36,872千円 保育園ミーティング 5,000千円 保育士実態調査 357千円 その他 280千円			
	令和4年度予算	予算額 48,000千円 <内訳> 保育人材支援センター運営 36,342千円 保育園ミーティング・保育人材定着化研修 8,000千円 保育教諭資格取得補助金 658千円、保育士等実態調査 3,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	保育士確保策等により就職に至った保育士の数(累計)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	824	1012	1013	1200	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育人材支援センターさぼ笑みの運営により、令和3年度中に求職者243人の登録、71人の採用に繋げるとともに、263施設、771件の求人登録等を行った。 ・保育園オンラインミーティング(合同説明会・面接会)を開催し、求職者117人、事業者110法人が参加した。 ・保育人材確保緊急対策費(短縮コード38350)の事業と合わせて、合計189人の保育士の就労に繋げた。 			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	保育人材支援センターさぼ笑みの運営において、支援対象職種の拡大、マッチングシステムの導入、センターの市内中心部への移設、開所時間の拡大など、機能拡大、利便性の向上を図った。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	「保育人材支援センターさぼ笑み」「保育園オンラインミーティング」及び「保育士実態調査」は、民間企業の創意工夫、効率的・効果的な事業運営のノウハウを活用するため、業務委託により実施しており、実施手法は適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	各事業の取組みにより、新規保育士確保、潜在保育士の掘り起こし等に繋がっているが、今後、さらに推進していく。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	令和3年度に「保育人材支援センターさぼ笑み」の機能強化等を図ったところであり、新規保育士確保、潜在保育士の掘り起こし等に繋がっている。今後も同センターの運営を中核として、さらに推進していく。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	「保育人材支援センターさぼ笑み」のマッチングシステムの機能追加、研修メニューの追加を行ったほか、開所日の見直し(祝日開所など)を図った。	見直し効果額 (前年度)	0	千円	
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	「保育人材支援センターさぼ笑み」の機能強化とともに保育人材確保施策の推進により、活動指標である「就労に至った保育士数」について、目標188人に対し、189人の就労に繋がったため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 令和3年度の「保育人材支援センターさぼ笑み」の機能強化、令和4年度の運営の改善等により、登録求職者・事業者数が大幅に増えるなど同センターの利活用が一層進んでいることから、令和5年度は着実に「保育士の確保」に繋げていく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他	「保育人材支援センターさぼ笑み」「保育園ミーティング・保育人材定着化研修」及び「保育士実態調査」の運営方法の見直し等を行ったが、概ね現状維持とした。	見直し効果額	4,642